

平成29年度 東京衛生学園専門学校 学校関係者評価報告書

学校法人 後藤学園
東京衛生学園専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園 東京衛生学園専門学校では、関連企業・機関・施設の代表、卒業生代表、保護者代表から成る「学校関係者評価委員会」を組織し、平成29年度の自己点検・評価結果に基づく学校関係者評価を実施したので、次のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

<学校関係者評価委員>

- 北目茂 委員長（公益社団法人 東京都理学療法士協会 監事）
- 榮島英剛 副委員長（東洋医療系学科 同窓会 理事）
- 長谷川美枝子 委員（医療法人社団 青葉会 牧野記念病院 看護部長）
- 菊地貴彦 委員（大田区鍼灸師会 会長）
- 森田正子 委員（看護学科 同窓会 会長）
- 長谷川誠 委員（リハビリテーション学科 同窓会 厚生部 部長）
- 加藤一人 委員（PNF研究所株式会社 代表取締役）
- 増山健太郎 委員（保護者代表：増山治療院 院長）

<教職員>

- 後藤修司（学校長）
- 森島健（教務部長、リハビリテーション学科 学科長）
- 五十嵐万喜子（事務次長、学校関係者評価委員会事務局）
- 光畑昇（企画調整局 第三者評価・広報・情報システム企画担当副局長）
- 小林里美（看護学科二年課程 学科長）
- 鈴木正則（リハビリテーション学科学科長代行）
- 波田康（東洋医療総合学科 学科長）
- 菅原之人（臨床教育専攻科 学科長、学校関係者評価委員会事務局）

2. 評価対象期間と委員会実施日時

<対象期間>

自：平成29年4月1日

至：平成30年3月31日

<委員会実施日時>

第1回：平成29年 5月29日（月曜日）18：00～20：00

第2回：平成29年11月27日（月曜日）18：00～20：00

第3回：平成30年 3月12日（月曜日）18：00～20：00

3. 実施方法、公表

平成29年度末に実施した自己点検・評価を学校関係者評価委員の皆様にお読みいただき、自己点検・評価結果の各基準に対するご意見と評価をとりまとめました。評価結果は、今後の本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

4. 平成29年度自己点検・自己評価に対する学校関係者評価

*評価基準 - 「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省）」に準拠

*評価点数 - 4 = 適切、3 = ほぼ適切、2 = やや不適切、1 = 不適切

基準1 教育理念・目的・育成人材像	評価(平均) 3.8
--------------------------	-------------------

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 理念、目的、育成人材像は明確である。昨年度より改善されている項目もあり、教育活動、社会ニーズを踏まえながら取り組んでいる。理念に基づいた方向に進むことも重要と思われる。
- 3つのポリシーが作られWEB上に公開できてよかったと思う。本年度に定めた重点目標や計画が反映されたので、今後はポリシーの浸透を進めて欲しい。
- 人間性、社会性、専門性、向上性を育み「心あるそして考える医療人を育てる」という育成人材像を教育側は実践し、学生が自ら深い洞察力を持って考察し理解できるよう育成に努めて欲しい。

基準2 学校運営	評価(平均) 3.0
-----------------	-------------------

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 昨年度から1項目改善されているが具体的に方針・計画に落とし込めていない部分もあるので、学校単位の運営方針・事業計画を急ぐ必要がある。
- 情報システム整備に関しては更にスピード感のある実行をお願いしたい。また、業務効率化も計画的にできれば完成形に近づくので一層努力して欲しい。
- 学内ポータルサイトの閲覧や利用率が向上し効果があれば評価が4でも可。
- 本年度に定めた重点目標や計画が反映され良かったと思う。また、教員の退職率が低いのは良い学校運営が行われていることだと思う。

基準3 教育活動	評価(平均) 3.9
-----------------	-------------------

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 本年度に定めた重点目標や計画が反映され、昨年度と比較しても課題に対する具体策が実行されており良いと思う。
- 各種委員会・小委員会・会議が機能していると思うので、実りが多く価値あるものになって欲しい。
- 教員が学生に与える影響力は大きいことを考えると、資質向上に向け一層スピード感ある取組みを望む。特に教員の育成目標と育成計画は明確にする必要があると思う。
- 学生による授業評価（振り返りシート）の実施は良かった。その感想や効果の報告が待たれる。
- 外部講師との連携強化を目的とした「講師のしおり」が効果的に活用されることを期待したい。
- 学園側の教員は昔からトップに立つ学園長の人柄か、生徒たちと分け隔てなく接し人望も厚く素晴らしい教員集団と拝察される。

基準4 学修成果

評価(平均) 4.0

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 就職率向上については少子化に伴う需要側との問題もあるが今後も努力して欲しい。
- 学修成果の評価指標を設定し、評価と対策のサイクルが実行されている。
- 教職員の過負荷にならないように留意しながら、アンケートの回収率向上に取り組んで欲しい。
- 資格(免許)取得率は全国平均と同様もしくは上回っており、様々な対策の効果が表れていると思う。さらなる向上に取り組んで欲しい。

基準5 学生支援

評価(平均) 3.1

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 学生とのコミュニケーションの活性につながる支援体制が整うと改善項目がさらに増えると思う。また、3つのポリシーを受験生にもきちんと理解してもらうのも1つの対策かと思う。
- 受験生の獲得には学生支援の充実をアピールする事が欠かせない状況であり、学校運営の大変さを感じる。
- 同窓会の活動において卒業生の参加率が各学科で異なる状況にある。学校として積極的に同窓会を活用することも大切であると思う。
- 退学者数が昨年度に比べ減少した成果は、プロジェクトチームが具体的に取組んだ効果の表れだと思う。今後も期待したい。

基準6 教育環境

評価(平均) 4.0

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 校内全面禁煙にしたことは評価できる。少なくとも医療人になるためには必要不可欠である。
- 設備は歴史があるものの工夫されている。また、美化の観点から施設改善することは良いことだと思う。
- 図書室の充実素晴らしいので、今後は全国の公立図書館との情報連携や外部への貸出などが可能か検討して欲しい。東京衛生学園に医学図書館ありを売りにするのも良いと思う。
- 防災面では校舎の拡張に伴い、少し迷路のような場所もあり足元に危険を伴う箇所も見受けられる。校舎内に煙が充満したときに怪我する危険性なども考慮し、防災環境のさらなる整備を望む。

基準7 学生の募集と受け入れ

評価(平均) 3.4

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 概ね良好と思われる。東京オリンピックに向けて医療職種の学校としてアピールできる可能性がある。
- どの学科も定員確保に苦労しているので、学校をさらにアピールできるホームページの作成等を検討して欲しい。
- 在学中の授業料等経費の額が入学を選考するときのネガティブな要素にならないように、学校の充実した特別講義等を他校に入学して自費で参加した場合、これだけコスト高になるとゆうような費用対効果分析を視覚的にとらえやすくパンフレット中に示せると良いと思う。
- 2学科で若干の定員割れがあった。次年度に向け全学科で100%を目標に取り組んで欲しい。

基準8 財務

評価（平均） 3.0

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 概ね良好と思われる。
- 収益をあげるには定員確保はもちろん受験者数を増加させることぐらいではないだろうか。
- 事業計画書や貸借対照表及び監査報告書の情報公開が急務である。

基準9 法令等の遵守

評価（平均） 3.9

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 法令・設置基準等を遵守しながら適正な学校運営を行っており良好と思われる。
- 情報公開を進めていただきたい。

基準10 社会貢献・地域貢献

評価（平均） 3.1

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- ボランティア等に参加している様子などもホームページに掲載し、地域に知ってもらうのも良いと思う。また、ボランティアに学生が参加しやすくなるよう情報を増やし提供していくことが望ましい。
- 大田区のイベント、自治会のイベント等で貢献できそうなことを探すことも必要と思われる。
- ボランティア活動が少ないが、学園祭等で健康相談、身体測定など行っているのは良いと思う。
- 学園祭などで校内フリーマーケット及びオークションを開催して、大森のAED設置場所を増やす事業等に協力することも検討して欲しい。
- 学校ボランティアの担当窓口は明確化された方が良いと思う。2年後のオリンピック・パラリンピックに何らかの形で学生が協力出来るというのは、外部に向けても良いアピールになると思う。

基準11 国際交流

評価（平均） 3.0

<学校関係者評価委員会の評価・提言等>

- 国際化は必要であると思う。また、日本でもできる国際交流を具体的に考えて欲しい（モクサアフリカのイベント等）
- 天津・アメリカ等への研修旅行以外の活動があまり見られない。学内で外国人による中国語講座、英会話教室を常設して、その講師を通じて国際交流の発展を推進するのも一つの方法だと思う。
- 海外の医療現場で活躍する講師を呼んで講演してはどうか。

